

IV-61

早池峰ダムにおける周辺環境整備のための意識調査
～移転者・残存者・来訪者の三者の意識の比較研究～

岩手大学 正員 安藤 昭
 岩手大学大学院 学生員 大泉 剛
 岩手大学 正員 赤谷隆一
 岩手大学 正員 佐々木栄洋
 岩手大学 学生員 ○田村友治

1. 研究の背景と目的

近年、各種の建設事業における住民参加の試みとして、事前にアンケートや聞き取り調査を行い、行政に住民の声を生かす工夫が増えてきており、住民の多様な意識を構造化していく必要がある。

ダム周辺環境整備事業においても意識調査は実施されており、ダムの親水機能に注目が集まっている今日では、より幅広い住民の意見が必要になると思われる。しかし、ダム周辺環境整備に関する意識調査は、ダム建設に伴う移転者の生活再建に関わるものが中心であり、ダム建設後もダム周辺地区に居住する残存者や観光レクリエーション目的でダム周辺地区を訪れる来訪者への意識調査は、ほとんど実施されてこなかった。

また、完成までに長大な期間を要するダム建設事業では、建設工事が移転者・残存者・来訪者の三者に及ぼす影響は他の建設工事より大きいと思われる。それにも関わらず、建設工事そのものが住民に与える影響にまで踏み込んだ調査は、ほとんど行われていない。

そこで本研究では、ダム周辺環境整備に関する三者の意識を明らかにする事を目的としている。

なお、現在建設中の早池峰ダムは、すでに住民の移転が完了し、ダム堤体の工事も進捗していることから、建設中の課題の抽出にふさわしい場所と言える。

2. 意識調査の概要

前述の通り、ダム周辺環境整備には、三者の意識が重要である。そこで、本研究では、移転者・残存者・来訪者の三者を対象に意識調査を行った。

調査票は、世帯の状況を把握するための「世帯票」と個人の意見や希望を把握するための「個人票」から構成されている。なお、来訪者は個人票のみである。

調査対象者となる移転者は、早池峰ダム建設に伴い移転した19世帯（集団移転17世帯、個別移転2世帯）とその世帯の成人。残存者は、早池峰ダム建設、および付け替え道路の建設により生活環境に影響があると思われる大迫町内川目地区に居住する124世帯とその世帯の成人。来訪者は、盛岡市市街地を1km×1kmのメッシュに分割し、北部・西部・中央部・東部・南部に属すると思われる5つの地区からそれぞれランダムに1メッシュを抽出し、そのメッシュ中に居住する成人の盛岡市民である。

調査方法は、三者ともに訪問留置法であり、移転者と

来訪者は学生が配布・回収を行い、留置期間は4日間、残存者は、大迫町役場に配布・回収をお願いし、留置期間は10日間である。調査期間は、1997年1月であり、調査表の内容は表-1、調査票配布数・回収状況は表-2の通りである。

表-1 調査表の内容

調査内容	対 象		
	移	残	来
世帯票			
①性別、年代別人数	○	○	
②移転前、および当初の希望の宅地面積	○		
③現在の宅地面積	○	○	
④移転前、および当初の希望の農業形態	○		
⑤現在の農業形態	○	○	
⑥移転前、および当初の希望の収入形態	○		
⑦現在の収入形態	○	○	
⑧これからの農業経営	○	○	
⑨畜産業に伴って発生する汚水の処理		○	
⑩早池峰ダム建設工事の見学会への参加	○	○	
個人票	移	残	来
①現在、および移転前と比べての生活環境の評価	○		
②現在、およびダム建設工事前と比べての生活環境の評価		○	
③生活関連施設の要求	○	○	
④ダム建設後も大事にしていきたい物	○	○	
⑤早池峰ダム建設に伴う水没地域の記録	○		
⑥現在完成している部分のデザインの評価	○	○	
⑦ダム湖周辺レクリエーション施設の運営への参加意欲	○	○	
⑧ダム湖周辺レクリエーション施設への訪問意欲			○
⑨早池峰ダム定住ゾーン・早池峰ダム湖辺ゾーン・市街地ゾーン・早池峰山麓ゾーンの整備方向	○	○	○
⑩地域社会意識	○	○	
⑪定住意識	○	○	
⑫大迫町への来訪経験			○
⑬早池峰ダムの認知度			○
⑭大迫町の印象、および将来像			○

注）移：移転者 残：残存者 来：来訪者

表-2 配布数、有効回答数、および有効回答率

対 象 者	配 布 数	有効回答数	有効回答率
移 転 者	64	50	78.1 %
残 存 者	496	—	—
来 訪 者	400	279	69.8 %

3. 解析結果および考察

今回は、個人票の「⑦ 早池峰ダム定住ゾーン・早池峰ダム湖辺ゾーン・市街地ゾーン・早池峰山麓ゾーンの整備方向」の三者の意識の比較について述べる。大迫町を図-1に示すように、ダム建設後も人が住む「早池峰ダム定住ゾーン」、早池峰ダム湖周辺の「早池峰ダム湖辺ゾーン」、大迫町の中心と移転地域を含んだ「市街地ゾーン」、および「早池峰山麓ゾーン」の4つにゾーニングし、その各々について、生活環境関連施設の整備(1~4)・自然環境保全(5~8)・原風景保存(9~11)の3つの観点から選択肢を以下の11項目設け、複数回答で尋ねた。

1. 供給施設(電気・ガス・上下水道)が整備されている地区
2. 学校・公民館・公園が整備されている地区
3. 交番・消防署・病院が整備され、住民が安心して暮らせる地区
4. 道路が整備され、公共交通の便がよい地区
5. 緑が豊かな地区
6. 空気がきれいな地区
7. 川の水が清らかな地区
8. 地勢(土地の起伏や川の形)が自然のまま残っている地区
9. 伝統的な建築物が保存されている地区
10. 地域固有の風景が保存されている地区
11. 地域固有の生活様式や伝統文化が受け継がれている地区

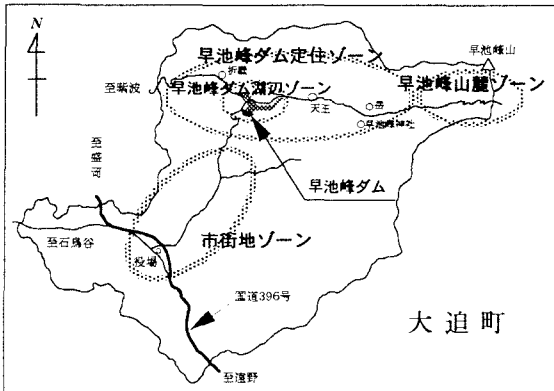


図-1 大迫町のゾーニング

各ゾーンの集計結果を、図-2に示す。早池峰ダム定住ゾーン、および早池峰ダム湖辺ゾーンでは、移転者、来訪者ともに自然環境保全への関心が高く、特に早池峰ダム湖辺ゾーンにおいての来訪者の意識は、8割を越えている。市街地ゾーンでは、移転者、来訪者ともに、生活環境関連施設への関心が高い。また、来訪者の方が高いのが特徴的である。早池峰山麓ゾーンでは、早池峰ダム定住ゾーンや早池峰ダ

ム湖辺ゾーンと同様に自然環境の保全への関心が高い。加えて、移転者では他の3ゾーンと比較して原風景保存への関心もあることが分かる。

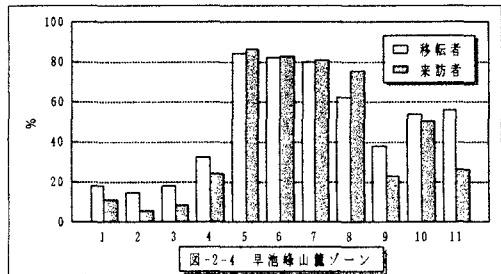
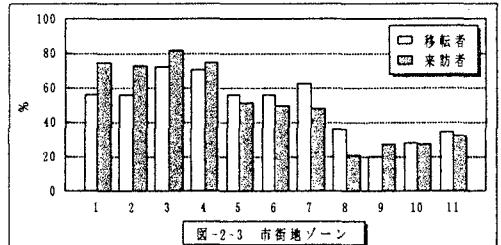
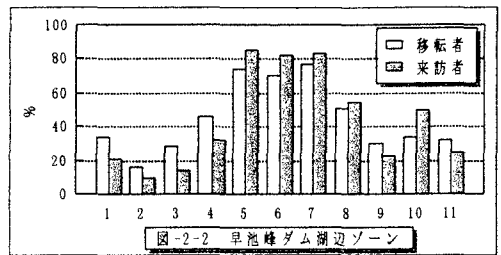
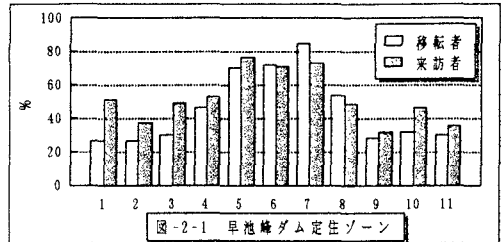


図-2 整備方向における移転者と来訪者の意識の比較

現在、定住者の調査票の解析中であるため、当日に移転者と来訪者に残存者を加えた各ゾーンの整備方向に対する意識の比較について発表する。

【参考文献】

大泉 剛：築川ダム建設に伴うダム湖周辺環境整備に関する基礎的研究(岩手大学大学院1995年度修士論文)